

## 中核農家に向けた研修の実施

2016年から開始している中核農家に向けた研修は3年目に入りました。対象地域のブックル・デュ・ムーン（BM）州とオー・バッサン（HB）州から、今年はそれぞれ18の農家グループ（計72名の中核農家）を選抜して研修を実施していきます。まずは1月下旬～2月上旬にかけて種子生産理論研修を、そして4月下旬～5月上旬にかけてFFS/FBS\*ファシリテーター育成研修を実施しました。これら講義中心の研修の後は、6月～12月にかけてゴマの栽培期に合わせて圃場での実践研修や農民組織強化研修を実施していく予定です。

\* それぞれ、FFS=Farmer Field School（農民圃場学校）、FBS=Farmer Business School（農民経営学校）の意味。

### • 種子生産理論研修（2018年1月下旬～2月上旬）



写真6左から：①HB州での研修の様子。ゴマの概要と栽培品種について解説するINERAのDr. MININGOU。②BM州での研修の様子。主要害虫の解説を写真を用いて解説するINERAのDr. OUEDRAOGO。③HB州での研修受講証明書の授与の様子。

### • FFS/FBSファシリテーター育成研修（2018年4月下旬～5月上旬）



写真7左から：①HB州での研修の様子。グループワークで指示を出すメインの研修講師のMs. DA（手前）とMr. RAMDE。HB州の農業局職員である。②BM州の研修の様子。栽培技術について講義。講師はBM州の農業局職員であるMr. COULIBALY。③同研修にて、改良型の篩（ふるい=収穫後にゴマの選別で使用）を紹介している様子。

### ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト

プロジェクト事務所  
03 BP 7123 Ouagadougou 03, Burkina Faso  
Tel: +226-67-37-59-80

Email: [projetsesame@yahoo.fr](mailto:projetsesame@yahoo.fr)  
<http://www.jica.go.jp/project/burkinafaso/005/index.html>

### 編集室より

2018年6月に土方長期専門家が任期を終えブルキナファソを離任しました。2015年から3年間、ゴマ栽培技術改善のための試験や、新品種の登録に向けた試験などに、INERAの研修者達と従事しました。土方専門家、そしてINERAの研究者達、本当にお疲れ様でした。また土方専門家は、自宅での日本人専門家を招いての食事会などを頻りに開催してくれて、娯楽の少ないブルキナファソで楽しい一時でした。本当にありがとうございました。

# ブルキナファソ国 ゴマ生産支援プロジェクト ニュースレター



ブルキナファソ国 農業水利省

独立行政法人 国際協力機構 JICA

### 目次:

- 技術開発支援の成果共有 1  
ワークショップ
- 技術開発支援の成果共有 2  
ワークショップ(続き)
- 寄稿「プロジェクト活動を終えて」
- 中核農家と一般農家への 3  
モニタリング調査
- 中核農家に向けた研修の 4  
実施

## 技術開発支援の成果共有ワークショップ

6月5日に任期満了で離任する土方長期専門家とINERA（国立環境農業研究所）研究者チームおよび農業省のDGPV（植物生産総局）との協同で、ゴマステークホルダー向けの成果共有ワークショップを4月19～20日に開催しました。土方専門家や研究者チームにとっては活動の集大成となるワークショップです。1日目には、



写真1：ワークショップ1日目の様子。

ゴマ栽培コスト調査の結果発表、新品種登録申請までの取り組み成果報告、虫害管理・農薬使用・営農・栽培技術に関する各試験の成果報告、種子生産マニュアルに関する報告等が行われました。参加者は農業省DGPVのDG、商業省（MICA）、INERA、SNS（国家種子課 =DGPV傘下）、GIZ（ドイツの国際協力機関）、NGO（RONGEAD、LWR、OCADES）、種子生産組合、ゴマ生産者組合を含む多くのステークホルダーが参加しました。本ワークショップにより、以下が達成されました。

①1つ以上の新品種登録を目的に選抜試験を行った結果、ブルキナファソに起源をもつ有用な3品種（白ゴマ品種のPAKRE-SAAYA (SKC23-KDG3)とBO NOGORA (SKC21-GMP3)、黒ゴマ品種のA KILOM (SKC39-LEO2)）が選抜され、奨励品種として現在登録申請中です。これら品種は収量や食味を考慮して選定されました。この試験の取り組み結果が発表され、栽培技術書が協力者および各ステークホルダーに共有されました。

②毎年全国各地で実施してきた「播種」「施肥」「農薬」に関する試験結果が、INERAやSNSの研修講師により発表され、新技術情報が協力者および各ステークホルダーに共有されました。

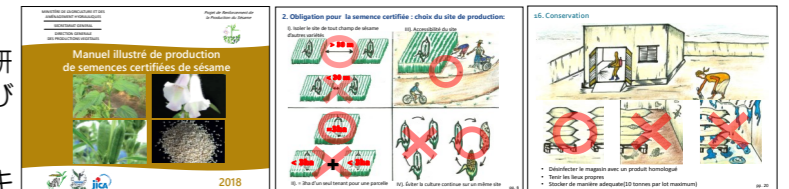


図1：イラストマニュアル。左は表紙。ページの一部を抜粋。

③ゴマ種子生産に関するイラストマニュアルとテキストマニュアルが参加者により承認され、協力者および各ステークホルダーに配布されました。

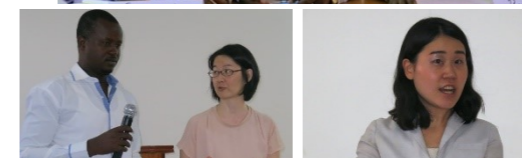


写真2上から右下へ：①開会の辞を述べる、左からBM州農業局DG、INERAのDr. MININGOU、DGPVのDG。②プロジェクトの概要を説明する大谷副総括と通訳のプロジェクトスタッフMr. TAPSOBA。③1日目の閉会の辞を述べるJICAの笹部所員。

写真3、成果を報告した発表者達。左上から：①INERAのDr. MININGOU、②土方長期専門家、③INERAの研究生、④SNSのMs. TRAORE、⑤プロジェクトスタッフのMr. BAZIOMO。

## 技術開発支援の成果共有ワークショップ(続き)

ワークショップの2日目には、参加者全員で試験圃場に行き、新品種を含む各種ゴマの栽培状況を観察しました。また観察しながらINERA研修者による解説や参加者間で意見交換もなされ、参加者はゴマ栽培に関する知識を深めることができました。



写真4左上から右へ：①試験圃場全景。②圃場内に入って行く参加者たち。③参加者に説明するINERAのDr. MININGOU。④開花しているゴマ。⑤土方専門家を支えたプロジェクトスタッフのMr. BAZIOMO (左) とMr. SOUMA。⑥参加者に説明するMr. SOUMA。⑦参加者に説明するMr. BAZIOMO (右)。⑧意見交換し合う参加者たち。⑨観察の最後、ワークショップの閉会の言葉を述べるDGPVのDG (中央の左側)。

### 寄稿「プロジェクト活動を終えて」

バジオモ・フェルディナンド (BAZIOMO Ferdinand) 土方専門家の技術アシスタント



この文章をもって、本プロジェクトが当初から目指していた目標の達成のために色々のご尽力頂き、プロ意識を見せていただいた関係者の皆様に感謝の念をお伝えします。INERAの油料種子プログラムとの密接な協力は、国のカタログに登録されるべき、ブルキナファソで最も良い種子として選択された3種のゴマの提案につながりました。我々は「任務完了」という気持ちを持って活動を終えますが、我々としてはブルキナファソのゴマ生産者のお役に立つべく、この新種が登録され、また普及される事を希望しております。

## 中核農家と一般農家へのモニタリング調査

プロジェクトでは中核農家に研修して、その中核農家が各自のコミュニティ(農家グループ)に帰って一般農家へ研修するという方式を採用することにより、多くの農家への技術の普及を目指しています(図2)。そして、中核農家から一般農家への研修がきちんと行われているか、実際のゴマ栽培に研修内容は生かされているかをモニタリング調査して追跡しています。2017年の研修とゴマ栽培に関する調査が昨年から続けて行われ、今年の2月で終了しましたので、結果を共有します。

まず中核農家から一般農家への研修の開催状況ですが、2017年は研修実施率が97%でした。33の農家グループのうち1グループのみが自らのコミュニティで研修を実施できませんでした。また、研修はゴマの栽培期に合わせて計6回行われましたが、参加した一般農家の数は、平均すると毎回507名でした。

最後に、2016年と2017年の研修受講農家グループのメンバーである一般農家が、自身のゴマ栽培で中核農家から教えられた技術を適用したかどうかを調査した結果、計39グループから回答を得ることができました。39グループの702名が研修へ参加しましたが、702名中487名が、2017年農作期にゴマの栽培を行ったことが分かりました(栽培率69.4%)。この487名が行うゴマ栽培において、移転技術がどのように適用しているか聞き取り調査を行ったので、結果の一部を紹介します。推奨している認証種子の使用に関しては、3人に2人の使用率でした。推奨の播種時期は4人中3人が守っていました。肥料(NPK)や農薬の使用は4割程度であり、コストがかかるためか使用率は低いものでした。逆に教えられた技術や推奨事項の中で適用率が高かったのは、適切な播種方法、適切な間引き方法、収穫時のカマやナイフの使用、シート上での脱粒、収穫物を新品の袋へ入れることで、いずれも9割を超えていました。

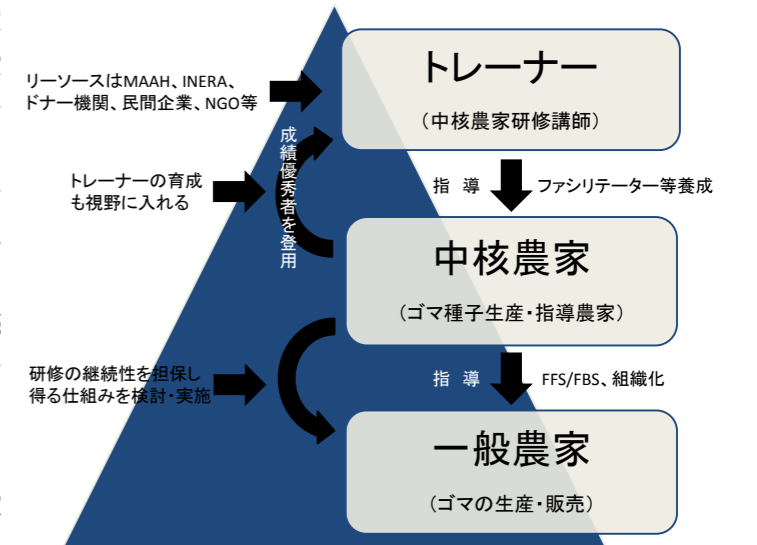


図2：技術普及研修の概念



写真5：①左の2枚は農家グループメンバーへの移転技術適用状況モニタリングの様子(BM州)、②右の2枚は同モニタリングのHB州での様子、③中央の2枚は中核農家から一般農家への研修をモニタリングした際に圃場の作り方を菊田専門家が実地指導している様子。